

平成26年度全国学力・学習状況調査結果について

● 問合せ 学校教育課 (☎2185)

4月22日に実施された平成26年度全国学力・学習状況調査の結果が、文部科学省により公表されました。伊万里市の概況についてまとめましたので紹介します。なお、本調査結果については、市内の各小中学校において分析し、課題を明らかにして具体的な対応策を考え、全職員の共通理解のもとで実践に移しています。

調査内容



▷ 学年・教科など

- 小学校 第6学年：国語A、国語B、算数A、算数B、質問紙（生活・意識など）
- 中学校 第3学年：国語A、国語B、数学A、数学B、質問紙（生活・意識など）

▷ 設問内容（AとBの違いとは？）

- A（知識）：身に付けておかなければ後の学年に影響を及ぼす内容、実生活において不可欠である知識、技能など
- B（活用）：知識、技能などを実生活で活用する力、課題解決のための構想を立てて実践し、評価・改善する力など

伊万里市の調査結果

① 学力調査

【下表：伊万里市の記号説明】

- 全国との比較（左側：桃色枠） △：全国を下回っている
- 佐賀県との比較（右側：白枠） ★：佐賀県とほぼ同程度 ▲：佐賀県を下回っている ※同程度とは0.4%以内のひらき

小学校（第6学年）

	国 語		算 数	
	A知識	B活用	A知識	B活用
全 国	72.9	55.5	78.1	58.2
佐賀県	73.5	54.6	77.6	57.3
伊万里市	△	▲	△	▲

国語Bは県平均とほぼ同程度でしたが、そのほかは、全国平均、県平均ともに下回りました。特に算数においては、活用に大きな課題があります。領域では、国語は『話すこと・聞くこと』、算数は『数と計算』・『量と測定』にそれぞれ課題が残りました。

中学校（第3学年）

	国 語		数 学	
	A知識	B活用	A知識	B活用
全 国	79.4	51.0	67.4	59.8
佐賀県	78.0	48.8	64.0	56.5
伊万里市	△	★	△	▲

国語Aは県平均とほぼ同程度でしたが、そのほかは、全国平均、県平均ともに下回りました。特に数学においては、知識、活用ともに大きな課題があります。領域では、国語は『書くこと』、数学は『関数』・『資料の活用』にそれぞれ課題が残りました。

② 質問紙（生活・意識）調査

小学校（第6学年）

▷ 全国・県との比較で良好だった項目

- 学校図書館や地域の図書館に行っている。
- 家で、学校の宿題をしている。
- 地域の行事に参加している。

▷ 全国・県との比較で課題がある項目

- テレビの視聴時間が長い。
- 授業の予習および復習ができていない。
- 平日や土・日曜日の勉強時間（塾を含む）が少ない。

	平 日		土・日曜日	
	1～2時間	2時間以上	2～3時間	3時間以上
全 国	36.2%	25.8%	12.5%	11.5%
佐賀県	38.1%	21.3%	13.4%	8.5%
伊万里市	33.2%	15.9%	12.8%	4.8%

中学校（第3学年）

▷ 全国・県との比較で良好だった項目

- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている。
- 人の役に立つ人間になりたいと思っている。
- 地域の行事に参加している。

▷ 全国・県との比較で課題がある項目

- 授業の予習ができていない。
- 平日や土・日曜日の勉強時間（塾を含む）が少ない。

	平 日		土・日曜日	
	1～2時間	2時間以上	2～3時間	3時間以上
全 国	32.8%	35.1%	23.4%	16.9%
佐賀県	34.8%	28.6%	22.8%	11.8%
伊万里市	32.9%	22.1%	19.0%	7.1%

③ 今後も伊万里市として力を入れていきたいこと

◇ わかる授業の展開

- 学校内外での研修を通じて、授業における指導方法を改善し、学校全体でわかる授業に努めていきます。
- 課題とされる活用力を高める授業づくりに努めていきます。

◇ 家庭学習の質と時間の向上

- 授業と結びつけた効果的な家庭学習（予習・復習）を推進していきます。
- 発達段階に応じた家庭学習の時間のめやすを示し、確実に実施できるように、家庭や地域との連携を深めていきます。

◇ 小中連携の活性化

- 中学校区ごとに小中共通した約束事を決め、学習・生活習慣の確立を図っていきます。
- 特に、小学校第6学年と中学校第1学年での学習面や生活面での指導を共有し、子どもたちがスムーズに中学校での授業や生活に慣れていくような教育環境づくりに努めていきます。

※本調査により、すべての学力が測定できるわけではありません。

みんなで
考えよう
人権・同和問題
No. 213

このコーナーでは、隔月のシリーズで掲載
しています。これを手がかりに、家庭で人権・
同和問題について話し合ってみましょう。

『コミュニケーションの
大切さ』

大切さ

多くの修学旅行生が伊万里市を訪れていることをご存じですか。伊万里グリーン・ツーリズム推進協議会では、毎年春と秋、主に関西や関東の中学生、高校生を受け入れていきます。私も一会員として昨年の春から民泊をはじめました。子どもたちに対して、私が最初に行うことは、「今から明朝まではみんな家族だからね。お客様ではないよ。料理だって手伝ってもらおうし、いろいろ

ろやつてもらおうからね」としっかり伝えることです。

ほとんどの子どもたちにとって、遠方の他人の家に泊まるのは初めての経験です。しかし、夕食の準備を手伝い、食卓を囲むころになると、会話は弾んできます。家庭の事情には立ち入らないように気を付けてながらもいろいろな話をしていくと、家庭の中の雰囲気が見えてきます。たまには、あいさつや食事のマナーなどについて気になる点を注意することもあります。これは、一日だけでも親代わりに

なった者の務めだと考えているからです。そして、その思いは子どもたちにしつかり伝わっていると感じています。

今、子どもたちのコミュニケーション力の低下が指摘されています。しかし、それは私たち大人の責任でもあります。

人は本来、顔と顔、目と目を合わせ、相手の表情を読み取りながら互いの意志や感情を交わしてきました。そして、その行動が、相手を思いやり、助け合うことにつながっていくのだと思います。

まずは、私たち大人が率先して家庭や地域できちんとあいさつを交わすとともに、1日に1度はゆっくり話をする時間を持ちたいものです。しっかりと相手の目を見ながら。

愛宕権現神社秋まつり府招浮立

優美な舞いで参観者を魅了

10月12日、南波多町の府招上公民館で愛宕権現神社秋まつり『府招浮立』がありました。

銭太鼓を持った女の子たちが踊りながら神社まで行く『道行き』は、この日悪天候のため、公民館の敷地内で行われ、その後、館内で、33演目のう

ち15の演目が披露されました。笛や太鼓のはやしに合わせた優美な舞いや演技は、多くの参観者を魅了していました。

府招浮立は、道行きと舞台などで行う本浮立からなり、昭和43年に県重要無形民俗文
化財に指定されています。



↑『道行き』では、あてやかな衣装に身を包み、優雅な踊りを披露する子どもたち

郷土の文化財

史跡大川内鍋島窯跡②

問合先 生涯学習課

(☎) 233186

鍋島焼のはじまり

鍋島焼はどのようにして生産されるようになったのか、その経緯は、関ヶ原の戦いにさかのぼります。

鍋島家の当主勝茂は、関ヶ原の戦いで豊臣側の西軍に参加しますが、徳川側の東軍に敗れてしまいました。勝茂は、徳川幕府に鍋島家を取りつぶされないよう、長崎に輸入されていた中国製の磁器など珍しい品々を徳川将軍へ献上していました。しかし、中国の王朝が明から清へと交代し、中国製の磁器などが長崎に輸入されなくなりました。

められて鍋島焼の生産を開始したといわれています。

鍋島焼は将軍家への献上などのための磁器であったため、その生産技術などが外部に漏れないように管理が徹底されていました。しかし、当初の生産地であった有田は、民間磁器の生産や取り引きの増大に伴い、人の出入りが激しくなり、秘密保持が困難になりました。このため、1650年代に現在の大川内山に場所を移して鍋島焼の生産を行うようになったといわれています。



いろえからはなもんざら
色絵唐花文皿
初期鍋島